

巻頭言

変化への適応 -DXへの期待-

一般財団法人 日本建築総合試験所
常務理事 河津 龍大



先日、ある国際政治学者の方の講演を聞く機会を得ました。たまたまTVでも拝見する方で大変興味深い内容ばかりでしたが、特に印象に残った話の一つに「アメリカ政府の世代交代に日本政府は対応できるか？」がありました。政治の話ではありましたが、変化への対応と言う意味では「技術の進展や社会の価値観の変容等に、私たちGBRCはどう対応していけるか」と自身の立場に置き換えながら話を聞きました。もう一つ興味深い話題として、わが国の人口減少問題の話がありました。総務省統計局公表のデータによると、2025年5月現在の日本の人口は約1億2,334万人と推計されています。それが2050年には1億人を割り込むと言う話であり、そのこと自体は何となく知っていましたが、減少は東京都(1,425万人)と九州(1,388万人)の人口を合わせた数にほぼ匹敵する(25年後に東京と九州が消えてなくなる!)と言われてハッとし、途端に大変な問題であると切実に感じた次第です。

著しく進歩する技術や価値観の変容に加え、働き手が足りなくなってくる状況にどう対応するかと考えたとき、やはりクラウドやAI等のIT技術を活用したDXの推進は避けて通れません。遅ればせながらGBRCでも役職員全員を対象としてITやDXに係るリテラシー教育を始めました。個々の知識レベルをテストで確認し、結果に応じたレベルのeラーニングを受講するプログラムです。知識レベルの向上はもとより、マインドセットの醸成も目的としています。第三者機関として変えてはいけないこともある一方で、これまでの慣習に固執せず、社会の価値観が動いているなら自分たちも少し視点を変えてみる、変化することへの不安だけでなく変化しないことのリスクを考える等に繋がればと期待しています。私も早速テストを受けてみました。結果、沢山のeラーニングを受講することになりそうです。